

研修報告書

1. 研修報告書
2. 質問項目についての報告

氏名	吉沢 十紀		
所属大学	東京都市大学	学部	工
学科	建築	学年	4
専門分野	建築意匠		
派遣国	スイス	Reference No	CH-2021-000097
研修機関名	Stuecheli Architekten	部署名	WBW
研修指導者名	Tinner Mathis	役職	Praktikant
研修期間	2021 年 5 月 10 日 から 2022 年 4 月 9 日 まで		

I. 研修報告書

1. 研修報告の概略を 1 ページ以内にまとめてください。
2. 研修内容および派遣国での生活全般について 4 ページ程度で具体的に報告してください。
(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポートの内容を含んだもの。写真もあるとよい。)

1. 研修報告の概略を1 ページ以内にまとめてください。

2021 年 5 月 10 日より 11 ヶ月のインターンシップをスイス、チューリッヒ Stücheli Architekten で行った。コンペティションチームに配属され大小合わせて 10 前後のプロジェクトに参加した。チームにはアーキテクトのほか時期によって 2 人から 7 人のインターンがおり、それぞれ国内外、世界中から集まっていた。業務は基本的にはドイツ語であったが、主にインターンとのコミュニケーションは英語で行われた。

プロジェクト

- UZH 改修（食堂棟、教室棟）
- オフィス改修（既存のオフィスが入った建物を住居に改修）
- コンペティション 1（刑務所の設計競技）
- コンペティション 2（工場跡地を既存建築を活用しながら学校へ改修）
- コンペティション 3（住居の設計競技）
- クリニックの内装、家具デザイン
- 高層集合住宅の実施設計
- 航空会社トレーニングセンターの改善案の提案
- 小規模集合住宅の実施設計
- その他小規模プロジェクトを含め複数

初期の設計段階から最終のプレゼン資料、図面、イメージの作成やマテリアル、色の選定、レーザーカッターやスチロールを利用した模型の製作に加え、コンペティションにおいてはスイスの規格での面積計算に至るまで幅広く携わった。プロジェクトごとにチームメンバーが変わったため様々な同僚とコミュニケーションを取りながら意見交換をし有意義な時間を過ごすことができた。

また、研修期間中に研修先企業が創立 75 周年を迎え、それを記念した冊子の制作にも参加した。それだけでなく社員旅行のような小規模ながらオフィス主催のイベントがいくつかあり、部署を越えて交流を深めることができた。

2. 研修内容および派遣国での生活全般について写真を含めて 4 ページ程度で具体的に報告してください。

(研修日誌、テクニカルレポートや単位認定用のレポート等)

ー研修について

2021 年 5 月 10 日より 11 ヶ月のインターンシップをスイス、チューリッヒ Stücheli Architekten で行った。コンペティションチームに配属され大小合わせて 10 前後のプロジェクトに参加した。チームにはアーキテクトのほか時期によって 2 人から 7 人のインターンがおり、それぞれ国内外、世界中から集まっていた。業務は基本的にはドイツ語であったが、主にインターンとのコミュニケーションは英語で行われた。



業務内容としては設計コンペティションの初期設計段階から最終のビジュアライゼーションまでにわたるものが中心であったが実施設計に進んでるプロジェクトの資料作成や面積計算、クライアントミーティングのためのイメージ作成など多岐に亘りインターンシップの利点である、大学では触れることの少ない建築の実務的側面を多く学ぶことができた。また国際的なチームメンバーであったためミー

ティングやディスカッションにおいて各国の建築教育や文化の特徴が表出していたのも非常に興味深いものであった。



UZH (チューリッヒ大学) のプロジェクトでは日本人の同僚とともに、仕上げマテリアルの色やテクスチャについて様々な検証とプロポーザルを行なったが、日本人の強みの細やかな配色感覚を活かしてクライアントに納得してもらえる設計提案をすることができた。また同時にカラーサンプルシートや、タイルやテキスタイルサンプルを用いた作業といった自分の大学内では触れる機会の無かった実務的な建築を通して自分の強みや興味の方向性を認識することにもつながった。

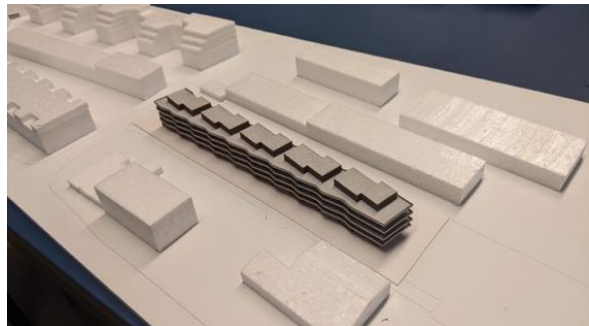


他にも学校や住居のコンペティション、改修や新築、家具のデザインなどのプロジェクトに携わった。日本では研修先のような“中規模設計事務所”はあまり見る機会はないが、その強みをひしと感じる研修であった。複数人で構成されるチームがいくつもあり、何個かにまたがって参加するアーキテクトもいることから、それぞれのプロジェクトのバックアップがしっかりしている印象を受けた。そのため家族を優先させる働き方や休暇の取得、残業の少なさなどを実現することが可能であり、従業員の生活を尊重した労働環境に衝撃を受けた。インターンである私でさえ上司や同僚が常に労働環境に気を配ってくれたおかげで体調を崩すようなこともなく1年間心身ともに健康に過ごすことができた。写真はコンペティションの敷地見学にチームメンバーと訪れた際のもの。



会社の環境としては同僚によるとスイス国内でも比較的優良なものらしくオフィス主催のイベントもいくつかあった。写真は研修先企業がデザインした建物に見学に行った時の様子で、この後にも食事会やゲーム大会があり、部署の垣根を越えて交流があった。コロナ禍で減ったとのことだったが私がいた期間で3回ほどイベントがあった。

イメージ作成や模型製作のためいくつかのチームにプロジェクトごとに参加したが、それぞれのアーキテクトの建築観に触れることができたのは大きな成果の一つだと感じる。それぞれのコンセプトメイキングの過程やプロジェクトごとのプレゼン手法の違いなどを密なコミュニケーションを通して学んだ。写真は製作した模型で、コンセプトやスケールによって表現方法や素材を変えている。模型製作は得意分野でもありチームメンバーと意見を交換しながらチームとして納得のいくものを作ることができた。また外部のモデリングプロフェッショナルに頼むこともあり、そういったレベルのものを見ることができたのも勉強になった。



ー生活について



現地ではアパートに滞在していた。中心部から少し丘を上った先で喧騒から離れた静かで自然豊かなエリアであった。写真はアパートからトラムの駅に向かう途中の公園で、近くにある幼稚園の賑やかさが心地よく地元の人たちにも人気の場所だった。チューリッヒはスイス有数の大都市ながら至る所に自然があり、また住宅地もすぐ近いためか穏やかな雰囲気を持っている。夏はチューリッヒ湖で多くの人が泳いでいるのを見かけ、冬はスキー板を持った人で溢れている、そんな自然と強くつながっている街だという印象を持った。

チューリッヒには ETH (スイス連邦工科大学チューリッヒ校) と UZH (チューリッヒ大学) があり、そこへの留学生が多い影響か、比較的外からくる学生に対して歓迎的な様子だった。住民登録や口座開設なども英語で対応してもらいスムーズに終えることができた。スーパーはドイツ語、フランス語、イタリア語のみの表記しかなく最初は苦戦したがすぐに慣れた。野菜や果物が安く自炊がより楽しいものとなった。またアジア系のスーパーも市内にいくつかあり、特に食事について困ることはなかった。ただ外食はどこも高く、そのためあまりする機会はなかった。



スイスに到着して1ヶ月ほど経ったあと、自転車を購入しそこから自転車通勤を始めたが、スイスは自転車レーンが整備されており、利用者も日本に比べて多いようであった。写真は夏季、毎週金曜夕方に行われてる自転車の社会的地位向上を目的としたデモの様子。ただあまり強く抗議するような様子はなく、市内をサイクリングするイベントのような印象を受けた。荒天時にはトラム、電車、バスを利用して通勤することもあったが、本数も多く、時間通りに運行しておりひとつの主要な交通機関として機能しているようであった。またチューリッヒからはヨーロッパ諸外国の主要都市に列車が通っており、スイスの美しい山々を眺めながら長い列車旅を楽しんだ。フランス、ドイツ、イタリア、オーストリアに加えて国内も列車を利用して訪れた。



研修を始めた頃、オフィスには自分を含め 5 人、多い時は 7 人ほどインターンがおり活気のある雰囲気だった。左の写真は仕事終わりにその同僚と湖の辺りにピクニックに行くときの様子。夏季は日没が遅く、終業後から 2、3 時間明るい時間が続くため、ただの平日でも仕事とは別の時間の過ごし方があるような印象を受けた。日本に比べて湿度が低く、暑さはあるものの快適で、右の写真のように平日でも多くの人が日光浴や湖での遊泳を楽しんでいる。冬季はスキーやスノーボードが人気で、週末の朝早い時間に駅に行くウェアを着た人をたくさん見かけた。アルプス山脈周辺にスキー場が集中しておりチューリッヒからは 2 時間から 4 時間ほどで到着するため電車を利用する人が多い。

市内中心部に Kunsthaus Zurich（美術館）があり、他にも大小合わせて多くの文化施設があった。近代の絵画や彫刻に興味があったのでスイス国内はもちろん、近隣諸国の美術館を多く回ったが、そういった文化に対する敬意といったようなものが強くあるなど感じた。これは同時に建築にも現れていて日本の新築主義のプロセスと異なり、既存建築のリノベーションが多く見られることと共通しているように思う。歴史を尊重し、現代の生活に昇華しながら共生しているのは日本のそれとは違ったもので非常に興味深い。

全体を通してスイスでの生活は、文化、風土、コミュニケーションなど様々な観点から見ても自分に合っていて、とても快適に過ごすことができた。自分の専攻である建築はもちろんのこと、興味のある絵画に触れる経験が多かったり、趣味であるスキーや料理なども非常に楽しめた有意義な時間だった。何より研修先での上司や同僚との出会いは大きく、建築観に加えてキャリアや対人コミュニケーションについて考えるきっかけを与えてくれ、内面を大きく成長させてもらったことに感謝している。

Ⅱ. アンケート

以下の質問にお答えください。

A. 研修内容について

1. 研修内容は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい・いいえ)
「いいえ」と答えた場合、どこが違っていたか具体的に記述してください。
2. 就業時間は、O-form に記載されていたとおりでしたか。(はい・いいえ)
実際の就業時間: 1日(8.5)時間
1週(5)日間;(月)曜日から(金)曜日
3. 研修先から支払われた“滞在費”は、現地通貨で週いくらでしたか。“滞在費”の内訳と日本円に換算した金額をあわせて書いてください。
週単位: 現地通貨(550CHF) 日本円(74,000 円)
全支給額: 現地通貨(24200CHF) 日本円(3,289,000 円)
4. 研修先から支払われた“滞在費”は、生活するのに十分なものでしたか。(はい・いいえ)
「いいえ」と答えた場合、何にいくらぐらい足りませんでしたか。
5. “滞在費”はどのように支払われましたか。(例:現金手渡し・銀行振込・小切手等)
銀行振り込み
6. 研修中の滞在先について、宿舎の形態、周辺地域の環境や治安について詳しく記述してください。
個人で契約したアパートに滞在。落ち着いたエリアで治安などは問題なし。
7. 研修中の滞在先(宿舎)から研修地までの通勤について書いてください。(交通の便・手段・費用等)
現地にて購入した自転車にて通勤。荒天時はトラムと電車を利用。
8. 研修先での職場環境(人間関係)は良かったですか。(はい・いいえ)
「いいえ」と答えた場合、不満だった点を書いてください。
9. 研修において、何か特別なプロジェクトに参加しましたか。(はい・いいえ)
「はい」と答えた場合、参加したプロジェクトの内容を記述してください。
企業創立 75 周年を記念したパンフレットの製作
10. 研修において、あなたの語学力(O-form に記載されている Required Language)は客観的に見て十分だったと思いますか。(はい・いいえ)

B. 生活について

1. 研修以外の時間(勤務時間後や週末)はどのように過ごしましたか。

ウェーンは、観光地がとて多く、週末は自然や、博物館などに行きました

日本と比較して気候が穏やかで特に夏季は湖のほとりでのんびりと過ごした。

2. 研修地で IAESTE 事務局主催の催しに参加しましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、参加したプログラムの内容とあわせて感想も書いてください。

3. 派遣国で、その国の伝統文化に触れるような機会がありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、どのようなものに参加したか、感想も詳しく書いてください。

同僚の実家に招いてもらい、ラクレットなど現地の伝統的な料理をいただいた。

4. 派遣国の印象を、現地へ行く前と行った後のイメージの変化も含め、詳しく書いてください。

隣国と比較しても非常に安全で穏やかな国だった。大きな大学がある影響か国外から来た人にも好意的で入国直後でもストレスなく生活を送ることができた。

5. 研修国で、日本のことについて質問をされましたか。(はい・いいえ)

C. IAESTE との連絡

1. 研修出発前、手続き上何か問題がありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

2. 派遣国への入国時に何か問題がありましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、問題点を詳しく書いてください。

3. 派遣国到着後、宿舎ならびに研修先へ自分ひとりで行きましたか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた場合、誰と行きましたか。

4. 3で「派遣国の IAESTE 事務局」と答えた場合、IAESTE 事務局はどのように関与していましたか。

出発前から連絡を取っていたなど、分かる範囲で具体的に書いてください。

5. 研修初日、研修先の受入準備体制は万全でしたか。(はい・いいえ)

「いいえ」と答えた場合、何に不備があったか書いてください。

6. 研修前から研修期間中、派遣国の IAESTE 事務局は、どのように関与していましたか。

研修期間中、問題が起こったときに適切な対応もしくは助言をしてくれましたか。

滞在先を見つけるサポートなどを含め温かく対応してくれた。入国直後事務局を訪れたが担当してくれた Gaby さんと直接話すことができて不安を取り除くことができた。

D. その他

1. 今回の IAESTE 研修を通して、最も良かったと思うことを書いてください。

研修先や同僚に恵まれたことは言うまでもないが、仕事をしながら海外で生活するという経験ができたのは自分の中で大きかった。過去に留学で海外に長期滞在することはあったが、フルタイムで働きながら海外で暮らすことは大きく違うように感じた。また現地の風土が肌に合っていたのかとても快適に過ごせたのは良かったように思う。

2. 研修予定内容に関して事前に勉強をして行きましたか。(はい・いいえ)

「はい」と答えた場合、何を勉強し、どう役立ったかを書いてください。

「いいえ」と答えた場合、事前に勉強をしなかった理由を記述してください。

研修先決定後、渡航まで時間がなかったことと、現地で必要なスキルが日本では勉強できなかったため。
(CAD ソフトなど)

3. 研修終了時に、受入企業に研修レポート(Technical Report, Training Diary を含む)を提出しましたか。

(はい・いいえ)

4. 日本出国前に準備しておいたほうが良いと思われることを書いてください。

語学の勉強。長期滞在であれば途中で一時帰国することも可能なのであまり気を張る必要はないと感じた。

5. 所持金やクレジットカード等、いくら・どのように持参されたか、また準備が十分であったかを書いてください。

5万円ほどを現金で用意したがカード支払いがメインであったため特に使い切ったりはしなかった。給料が入るまでの生活費分を引き落とし口座に入れておけば十分かと思う。

6. 日本から持参した物の中で、特に役に立ったもの、あるいは必要ななかったものがあれば書いてください。

薬は自分にあつたものを持っていったほうが安心。電子レンジがある家が少ないのでそれを使用する調理器具は使えなかった。

7. 来年以降、あなたが派遣された国へ、研修生として派遣される候補生に向けての助言を書いてください。
(研修のことだけでなく、語学面や生活面など、気が付いたことはできるだけ詳しく)

生活においては、治安も良く何不自由なく暮らせると思うので心配せず渡航して問題ないと感じた。ドイツ語はできるに越したことはないが、基本的に誰でも英語を話せるのであまり心配する必要はないかと思う。

8. 研修前と研修後で、自身の専門分野や国際理解に対する考え方に、どのような変化がありましたか？

あらためて建築が歴史や文化と強く関係する分野だと感じる事ができた。

9. 今回の研修に参加したことで、海外への留学に興味を持ちましたか？すでに興味を持っていた方は、その気持ちに変化はありましたか？

帰国後、学部を卒業する予定だが、修士を海外でやることに強い興味を持った。またスイスだけでなくドイツなどでまたインターンシップをしたいと考えている。

10. 今後 IAESTE での研修を考えている学生の方々へ、メッセージがあればお書きください。

今回の経験は間違いなく自分を大きく成長させてくれたものであった。学問と実務の相互関係を学べるのがインターンシップの一つの特徴だと考えるが、その利点を強く感じる事ができた研修であった。また研修に限らず、海外での長期にわたる生活は新しい発見を与えてくれるだけでなく、日本という国の国際的な立ち位置や価値を客観的に見ることもつながる。そこであらためて自分がどういうキャリアを歩みたいか考えるきっかけになるであろうし、そういった経験は今後必ず生きてくると考えている。